



## 接合部性能試験成績証

受付日：令和2年1月24日  
受付番号：HP20-KT020  
変更日：令和5年8月4日  
※(い)を変更箇所とする



東京都港区海岸1-11-1  
ニューピア竹芝ノースタワー17階  
ハウスプラス確認検査株式会社  
代表取締役社長 吉田 正司

試験結果は以下のとおりであることを証明する。

令和2年6月23日

1. 接合金物名称	FP-55
2. 試験依頼者 <sup>(い)</sup>	株式会社 栗山百造 〒955-0096 新潟県三条市井戸場84-9 株式会社 ダイドーハント 〒564-0063 大阪府吹田市江坂町1丁目12番38号江坂ソリトンビル1F
3. 目的	当該接合金物を用いた接合部の短期基準接合耐力(せん断)を評価する。
4. 試験内容 <sup>(い)</sup>	柱頭柱脚接合部(中柱型)のせん断試験 なお、準拠する試験方法・評価方法は、ハウスプラス確認検査株式会社制定「木造建築構造試験事業における接合部性能試験業務方法書(平成21年4月1日制定)」による。 「面内加力・スリット横方向」、「面内加力・スリット縦方向」、「面外加力・スリット横方向」、「面外加力・スリット縦方向」の4種類のせん断加力方向の単調試験結果より、降伏耐力の小さい「面内加力・スリット縦方向」で本試験(繰り返し載荷6体)を行い短期基準接合耐力を評価した。
5. 試験体仕様	1) 接合金物 「FP-55」1個×2箇所 材 質：SPHC (JIS G 3131) 寸 法：(外形)105mm×105mm×136mm 板厚t=6mm ドリフトピン用孔；5-φ13mm ボルト用孔；4-φ13mm 表面処理：生地 <sup>*1</sup> 2) 接合具 柱側：「座金 t=19.0×40×105」2枚×2箇所 材 質：SS400(JIS G 3101) 寸 法：40mm×105mm 板厚t=19mm ボルト用孔 2-φ24mm 仮留め用孔1-φ5.5mm 表面処理：生地 <sup>*1</sup> 「FPN-105」5本×2箇所 材 質：SWRM8相当材として以下に掲げる鋼線 <sup>*2</sup> SWRM8(JIS G 3505) SWRM10(JIS G 3505) Q195(GB/T701-2008 <sup>*3</sup> ) 寸 法：φ12mm L=103mm 先端絞りφ9mm 表面処理：Ep-Fe/Zn 8/CM2(JIS H 8610) 「クリ平頭ビス 5×45」2本×2箇所 材 質：SWRCH22A(JIS G 3507) 寸 法：頭部径φ9mm ねじ山径φ5.3mm ねじ谷径φ3.4mm L=45mm 先端形状は、とがり先とする。 表面処理：Ep-Fe/Zn 8/CM2(JIS H 8610) 梁側：「座金 t9×105×105」1枚×2箇所 材 質：SPHC (JIS G 3131) 寸 法：105mm×105mm 板厚t=9mm ボルト用孔 4-φ13mm 表面処理：生地 <sup>*1</sup> 「六角ボルト M12×140」4本×2箇所 材 質：SWRM8(JIS G 3505) 寸 法：M12 全長L=140mm ねじ部L=50mm 表面処理：Ep-Fe/Zn 8/CM2(JIS H 8610) 「六角ナット M12」4個×2箇所 材 質：SWCH8R(JIS G 3507-2) 寸 法：M12 表面処理：Ep-Fe/Zn 8/CM2(JIS H 8610) 3) 軸組材料 柱材：105mm×105mm×745mm JAS 同一等級構成構造用集成材 スプルース E95-F315 含水率：10.5～14.0% 全乾密度：0.36～0.39g/cm <sup>3</sup> 梁材：105mm×105mm×700mm JAS 対称異等級構成構造用集成材 スプルース E105-F300 2本 含水率：12.0～13.5% 全乾密度：0.38～0.47g/cm <sup>3</sup>  <sup>*1</sup> JIS H 8610 電気亜鉛めっき Ep-Fe/Zn 8/CM2 <sup>*2</sup> 試験ではQ195を使用した <sup>*3</sup> 中国国家標準規格(GB規格)
6. 試験条件等 <sup>(い)</sup>	「面内加力・スリット横/縦方向」 試験体は接合部を実状に合わせた仕様とした。 試験体の固定は、横架材の支持部にズレや回転が生じないよう、横架材の支持部を拘束治具を用いて拘束し、横架材の上端から150mmの位置で、M12ボルト・ナット及び角座金W9.0×80を用い拘束治具に緊結した。(締付トルク管理値：20N・m) 「面外加力・スリット横/縦方向」 試験体は接合部を実状に合わせた仕様とした。 試験体の固定は、横架材の固定においては、鋼製スペーサーによる2点支持とし、柱芯より250mmの位置から材端まで接地した。 (試験結果の算出においては、初期に接合部柱の割裂が発生した時点までとした。) (試験結果は接合部1箇所あたりの数値を示す。)
7. 試験結果	短期基準接合耐力 <b>8.1 kN</b> (詳細については接合部性能試験報告書に示す)
8. 試験場所	ハウスプラス確認検査株式会社 横浜第二試験所：神奈川県横浜市鶴見区矢向1-1-1 10番
9. 試験実施日	令和2年3月12日、13日
10. 試験実施担当者	ハウスプラス確認検査株式会社 評定部 上杉 義則 千葉 博

この接合部性能試験成績証を転載するときは、必ず全文を記載してください。